

トピックス
1. 青海波と Wi-Fi アプリ
2. ホワイト企業への道



福留経営労務管理事務所  
 姫路龍馬会  
 社会保険労務士・行政書士  
 福留 章

<h1>龍馬通信</h1>	No. 31
	2020年7月号

## 小暑から大暑の候～万物 皆 栄える～

夏至を過ぎて、小暑・大暑と二十四節気は進みます。

本格的な夏の到来。海辺に水辺に子供達の歓声が聞こえる季節ですが、コロナ禍の影響で多くの海水浴場などは遊泳禁止とのこと。子供達や若者のため息が聞こえてきます。日常が日常であることのありがたさをかみしめる毎日。自然に目を転ずると、草木はおい茂り生きとし生きるものが、その生命を惜しむかのように生き生きとして夏を謳歌しています。万物みな栄える季節。

年齢とともに夏の暑さは体にこたえますが夕立の後のさわやかな一陣の風や、ビールの喉越しの快感も暑さあつてのこと。不快な季節も心の持ち方で良くも悪くもなる。夏があつてこそ秋。秋の訪れはまだまだ先の事ですが、年相応に夏を楽しみましょう。



私事ですが今夏「ジン」に凝っています。

冷凍庫で（ジンはアルコール度数が高いので凍りません。）

しっかり冷やしたジンを大き目のコップに適量の氷を入れた

ところに注ぎ込む、後は好みで炭酸で割ってジンフィズ、トニックウォーターでジントニック、ライムの果汁でジンライムと、その日の雰囲気です。

冷えきった酒を暑さに疲れた体に注ぎ込む。おっと、美味しいにきまっているので、呉々も飲み過ぎにご注意・・・。

※小夏 7月7日頃

※大暑 7月23日頃

## 随筆 『龍馬と私』 ～ 脱藩 <sup>ろかじ</sup> 櫓舵なき舟 ～

脱藩のルートは研究者によってほぼ明らかになっている。幕末という暗闇のような海へ乗出した龍馬はまさに櫓舵なき舟のようなものであった。龍馬だけに限らず俗に志士と呼ばれる若者達をつき動かしていたものは何か、

私にとっては大きな謎だ。まだ20代そこそこの志士達の多くは様々な政治情勢の中で志半ばにして討死した。

徳川將軍の威光は薄れ多くの幕閣はその場しのぎの対応に終始した。米・英・仏・露と言った列強の圧力になす術もなく外交的にも各国に翻弄され続けた。開明派と呼ばれた松平春嶽や山内容堂にしても殿様であり、それ以上でもなくそれ以下でもなかった。新しい時代の風を感じつつこの成り行きを見通せる英傑と呼ばれる人がとぼしかった。薩長土肥と呼ばれる西国雄藩にしても藩論の統一に苦勞し、



楠木誠一郎 坂本龍馬 74 の謎より

ついに大名である藩主をごまかして藩を動かすしかなかった。幕府は今で言う、レームダックの状態であり、一部の藩以外の多くの藩は日和見主義、成り行きまかせの状態であった。龍馬にしても脱藩はしたものの何をすべきか、何をめざすのかといえは曖昧なものであり赤く燃えるような情熱も、まだ不完全燃焼の状況であった。まず、龍馬がめざしたのは長州であり脱藩7日後には無事下関に到着した。そこから九州に渡って薩摩を目指す。当時薩摩は二重鎖国の状態であり入国者を厳しく拒絶していた。龍馬も入国することができず結局、引き返す形で今度は江戸をめざし旧知の千葉道場に身を寄せることになる。櫓舵なき舟が荒海に乗り出したものの、龍馬のこれからは判然としていなかった。ただ、脱藩により退路をたれた龍馬が思う存分動きまわり、やがて薩長同盟や大政奉還、船中八策など目を見はるような快挙を成し遂げていく。龍馬の不思議の始まりであり、その5年足らずの年月は謎に包まれていると言って過言ではない。

## 青海波と Wi-Fi アプリ

青海波（せいがいば）は雅楽の演目の1でその衣装に使われる模様。半月形を三重に重ね波のように反復させたもの。この柄の発祥は古代ペルシャとされており、シルクロードを経て日本に伝わったのは飛鳥時代と言われている。末広りの扇形にも見え、重ねて縁起のよい模様とされ、様々な分野で使われ愛されている。

最近、若い人を中心に Wi-Fi のアプリがこの青海波の模様に似ているとの声があがっている。なる程、よく見ると青海波をもっと記号的にみみると例の Wi-Fi の電波が飛んでいるようなアプリに見えてくる。この超アナログ的な青海波が超デジタルの象徴である Wi-Fi のアプリに類似していることが何かほっとさせる。アナログとデジタル。もの皆すべてがデジタル化していく中でアナログ派の肩身は狭い。その利便性やスピードにアナログ的なものが勝てるわけがない。時代は否応なしにデジタルの時代に一直線に進むだろう。この度のコロナ禍



が一層その速度を加速させた様だ。何が面白いのか理解できないけれどオンラインでの乾杯が流行している。考えてみればデジタルとアナログとの融合でとても言うべきか。

時代は未来に向かって進んでいかねばならない。デジタルに押されながらも、しばしアナログ派としてねばってみよう。そっとデジタルの知識を蓄えながら・・・。



## ホワイト企業への道

世界中でまだ新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。日本では小康状態に入っているが第二波、第三波の感染拡大が懸念されている。今度のコロナ禍で感じるものがいくつかあった。それは、要るものと要らないもの、又、見えるものと見えないものがはっきりと認識できたということだ。ビジネスの世界では事業規模の大小にかかわらず、最低必要な事はコンプライアンス（法令遵守）であるということだ。必要不可欠と言ってよい。様々な国の支援や救援策の多くは事業主がコンプライアンスであることを前提としている。法令を守ること、税金を払うこと、社会的役割を果たすことなど事業主の不断の努力が求められている。やるべき事を放置しておいて、支援策の実行が遅いとか申請が難しいとか、文句ばかりいっているのもいかなものか。3大帳簿と言われる、賃金台帳・労働者名簿・出勤簿すら整備されていない中小零細企業のいかに多いことか。今なら労働契約書

（雇入れ通知書）就業規則・諸規程の整備も当然されていなくてはならない。コロナ禍が終息に向かったとしても開発の名の元に自然破壊に手を貸している我々人類に、やがて新しいウイルスは次々と功撃を仕掛けてくるに違いない。そんな有時に備えて、できることから速やかに労務管理上の備えをしていきましょう。微力ながら強かにコンプライアンスを目指す事業主さんを応援して参ります。

